

令和4年度学校自己評価システムシート (県立上尾特別支援学校)

目指す学校像	キャリア教育を推進し、豊かに生きる力を育てる学校
--------	--------------------------

重点目標	1 個に応じた授業づくりとキャリア教育の視点を生かした教育課程の編成・実施による質の高い学校教育の充実 2 地域との連携とセンター的機能の充実 3 安心安全な学校づくりの推進 (危機管理、不祥事防止と教職員の働き方)
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 昨年度、校内研修会において年間6回のグループ研究を実施し、報告会を通して、成果を共有した。 【課題】 整理した指導・支援方法について検討し、共通ツール等を活用するなど、わかりやすい授業の実践につなげていく必要がある。	わかりやすい授業を実践するための指導・支援方法(環境設定、ICTの活用を含む教材教具、実態把握)の工夫	①わかりやすい授業を実践するための指導・支援方法について校内研修会を年6回行い、報告会を通して成果を共有する。(3月)〈研究部〉 ②研修等を通して、共通ツール等を活用し、わかりやすい授業づくりを実践する。(12月)〈研究部〉	①わかりやすい授業を実践するための指導・支援方法について校内研修会を年6回行い、報告会を通して成果を共有することができたか。 ②研修等を通して、共通ツール等を活用し、わかりやすい授業づくりを実践することができたか。			
	【現状】 児童生徒の見立てや個に応じた指導支援等、教職員の自閉症等の障害理解が深まり、専門性が向上してきている。 【課題】 自閉症等の障害理解をより一層深めるために、教職員の専門性向上のための仕組みを構築する必要がある。	自閉症等の障害理解と個に応じた指導支援の実践	①自立活動専任等との協働授業等を通して自立活動の充実を図る。(通年)〈総合支援部〉 ②年間33回の特別非常勤講師等との取組等を通して、個に応じた具体的な指導支援を実践する。(通年)〈総合支援部・校内支援委員会〉 ③レインボーティーチャー制度等を活用し、教職員の学び合いの意識を高める。(通年)〈企画委員会〉	①自立活動専任等との協働授業等を通して自立活動の充実を図ることができたか。 ②特別非常勤講師等との取組等を通して、個に応じた具体的な指導支援を実践できたか。 ③レインボーティーチャー制度等を活用し、教職員の学び合いの意識を高めることができたか。			
2	【現状】 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンラインでの交流や動画を活用した交流等、新たな方法で教育活動を実施している。 【課題】 オンライン活用の幅を広げるとともに、間接的な交流及び共同学習の実施内容や方法について工夫し、交流校との連携をさらに深めていく必要がある。	地域とのつながりや地域での活動等を大切に教育活動の実施	①交流校との連携を十分に図り、交流及び共同学習を行う。(小4回、中1回、高1回実施予定)〈学部〉支援籍学習において、DVDの活用やオンラインで交流を行う等、感染状況を見ながら柔軟に実施する。(通年)〈小中学部・支援部〉 ②地域で継続的に活動できる機会と活動場所を充実する。(通年)〈進路指導部・高等部〉	①交流及び共同学習、支援籍学習を実施し、児童生徒の意識や行動に変容が見られたか。 ②事業所見学等、地域の理解を得て活動する機会を実施し、児童生徒の意識や行動に変容が見られたか。			
	【現状】 コロナ禍の中、制限はあるがオンラインを活用する等、感染予防対策を徹底しながら巡回・教育相談やケース会等を実施できている。 【課題】 新型コロナウイルス感染症予防策と両立できるような巡回相談やケース会議の実施方法を引き続き検討する必要がある。	校内外支援の充実	①巡回・教育相談やケース会議等の実施と校内外支援の情報共有並びに個々の課題への対応を行う。(通年)〈支援部・校内支援委員会〉	①近隣諸学校並びに校内において、適切な支援と情報を共有し、個々の課題が改善・解決されたか。			
3	【現状】 防災、保健等についても危機管理マニュアルに対する意識が高まり、運用方法について理解が深まってきている。 【課題】 危機管理マニュアルを適切に活用し、早期発見や組織的な対応等により、防災、感染予防等の対策を徹底する必要がある。	危機管理マニュアルに基づいた研修の継続及び新型コロナウイルス感染症対策の徹底	①危機管理マニュアルに基づいた研修に取り組む。(通年)〈防災管理部、指導部、保健部、情報教育部〉 ②新型コロナウイルス感染症対策の徹底を継続する。(通年)〈企画委員会・保健部〉	①校内研修を計画的に実施し、周知徹底を図るとともに、組織的に対応できたか。 ②県のガイドライン等を基に本校の実態に合わせた感染症対策が徹底できたか。			
	【現状】 ふれあいデーの定時退勤を推奨するための取組を行うことで、教職員のワークライフバランスの意識が高まってきている。職員会議、職員朝会等を活用し、不祥事防止に係る研修を計画的に実施している。 【課題】 働き方改革については、業務内容を見直し、教職員一人一人が自分の健康を意識した働き方をする中で、児童生徒に対して効果的な教育活動につなげる必要がある。また、不祥事防止については引き続き徹底する必要がある。	働き方改革の推進及び不祥事防止の徹底	①学校における働き方改革基本方針を踏まえ、ふれあいデーの定時退勤をはじめ、時間外在校時間等の削減に向けた取組や会議の効率化等を行う。(通年)〈企画委員会・衛生委員会・分掌・学部〉 ②N字型の研修をはじめ不祥事根絶に係る研修に取り組むとともに、日頃から注意喚起を行う。(通年)〈企画委員会〉	①教育活動の必要性を踏まえた上で、ふれあいデーの推進や会議の効率化等を進められたか。 ②不祥事防止を徹底できたか。			

学校関係者評価		
実施日 令和 年 月 日		
学校関係者からの意見・要望・評価等		